

## 2022年7月9日見学会ブログ

文化政策学科1年 S.N.

今日一日の見学会を通して、森林や木材について様々な立場の方々からお話を聞きました。その中で特に強く感じたのが、関わっている様々な人たちの思いを感じ取ることが重要だということです。

はじめに行った森林では、広大な土地を一、二人で管理しているということや、木の育て方についてなどを学びました。しかし、このように大変な思いをしつつ木を育てたところで、その大半は自身で切れるほどには成長しないため、後代のために手入れや植林をするとのことでした。

次に丸太市場を見学し、数多くある丸太の選別や、それぞれの価値について学びました。産地や形状によって36種類に分類されていて、その分類の一部は機械ではなく人が担っていました。大変な作業ですが、それは買う人に正しい値段・価値で評価してほしいという思いが表れていると思いました。さらに、成長が早い物がニュースになったり、注目されたりしているが、丸太や木材を扱う人々にとっては、長い年月をかけてじっくり成長した物や、枝打ちがされ節がないものが高品質だとのことでした。

そして、製材所の見学では、丸太が最終的にどのように加工され、販売されるのかを教えてくださいました。市場から買った丸太を無駄なく使うよう、建材だけでなく板やチップに加工していました。商品に合った物に仕上げるために、依頼者と相談し、乾燥の仕方やカットの仕方を変えているということを知り、ただ丸太を切るだけでなく、人とのつながりや少しの工夫が必要なのだと思いました。

私たちの生活の中に、木製製品はたくさんあるし、家や学校などの身近な建物にも木材は使われているため、ほとんどの人はそれが当たり前のことだとして気にもとめないと思います。しかし、今日の見学で感じた関わる人々の様々な思いや努力は、小さな物ではないし、多くの人に知ってもらいたい物だと思いました。



森林の木々



丸太市場



製材された丸太